

箆の定義

JJ1SXA/池

別稿で書いている記事中の「箆(えびら)」をググったら、「矢を入れて肩や腰に掛け、携帯する容器のこと。矢筒。」と、別に、数学の用語として、「箆」の定義が示されていた。

数学「箆」の定義

…集合 V, E と写像 $s, t: E \rightarrow V$ が与えられたとき、組 $Q = (V, E, s, t)$ を箆という。

このとき V の元を頂点、 E の元を辺あるいは矢という。

また辺 $\alpha \in E$ に対して頂点 $s(\alpha)$ を始点、 $t(\alpha)$ を終点という。

(V, E) は (Q_0, Q_1) や (I, Ω) とも書かれ、 s, t は out, in とも書かれる。…

こんな定義を示されても、全くわからない、まあ、わからないのが当たり前でしょう、然し、こんなことを研究している人がいるのだ、全く人間離れしているとの感想しか浮かばない。

名付け親は、国際高等研究所・カブリ数物連携宇宙研究機構の教授・中島啓氏(60歳)で、「箆多様体」研究の第一人者だ、クイバー(矢印)が沢山出てくるので多様体と組み合わせた「クイバーバラエティ(quiver variety)」の研究にちなんで、弟子たちがプレゼントしてくれた平家物語に出てくる「箆」を使って名付けたようだ、本人曰く、和訳は日本語でわかりにくい名称にと思ったとの事。

氏は、理論物理学に起源を持つゲージ理論を数学的に研究、特にゲージ理論に現れる様々な空間のホモロジー群を、幾何学的表現論と呼ばれる手法を用いて研究しているとのことだが、何もかも、チンプンカプンだ、確かに「クイバーバラエティ=箆多様体」は分り難い。

東大理1から数学科に進み、3年の時に数学の3分野(代数・幾何・解析)から幾何を選択、当時、数学の最先端だった幾何学と解析学の両方にまたがる研究に出会ったとのこと。

「箆」の現物(左)と、実際に腰につけている様子(右)



(2023年1月記)